まさのレポート
Masano Report
12
2014年 秋号

埼玉県議会議員 山本まさの
埼玉県議会 民主党・
無所属の会 越谷支部
〒343-0821
越谷市瓦曽根1-20-6 K1stビル3F
e-mail : masano.yamamoto@sea.plala.or.jp
http : //www.y-masano.jp/
お電話でのご連絡は、県議会控室へ
Tel : 048-833-1710（平日8:30～17:15）

料金別納
郵便
郵便区内特別

これまでご縁のあった方々にお送りしています。ご不要の方はお手数ですがその旨ご連絡ください。

16年かけて完成！ 大相模調節池（おおさがみちょうせつち）

昭和63年に計画された「レイクタウン整備事業」の中の大相模調節池が26年の時を経て完成し、竣功記念式典が行われました。

調節池の整備は平成11年に開始され16年かけて完成したわけですが、これは建設省河川局の事業としてのレイクタウン整備事業を、埼玉県と都市再生機構が連携し、調節池整備と市街地整備を共同で実施したものです。

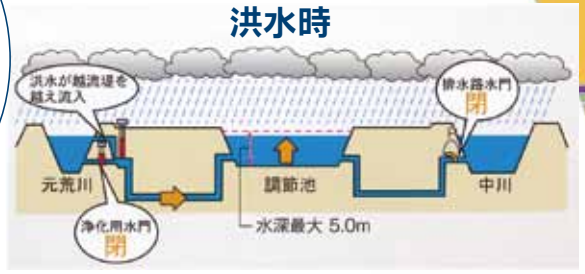
元荒川流域はもともと水のたまりやすい平地で、周りを利根川・江戸川といった大河川も流れているため、古くから洪水被害に悩まされてきました。また、昭和30年以降は流域の開発が進んだため、遊水・保水機能を果たす田畑が減少し、降った雨は一気に川へ集まるようになってしまいました。

このような浸水被害を軽減する方策の一つとして整備されたのが大相模調節池です。大相模調節池には、元荒川の洪水を調節する「調節池」の機能と、雨水の流出増を緩和するための「調整池」の、2つの機能があります。導排水路は埼玉県が施工、調節池は都市再生機構が施工しました。

調節池整備と一体的に新市街地整備をすることで、水辺空間と都市生活空間を融合させた、全国でも例を見ないモデル的なまちづくりが進められています。

10月19日　竣功記念式典にて

大相模調節池のしくみ



流域で約400haの浸水被害が軽減される。洪水のない日には潮の満ち引きを利用して流れをつくり、水質を保つ。

危険ドラッグ対策など、6項目について質問しました。

9月定例会が9月19日から10月10日まで行われ、私は9月26日に一般質問に立ちました。危険ドラッグの質問に対する知事の答弁が各社の新聞に取り上げられるなど、有益な回答を引き出すことができました。

埼玉版ウーマノミクスプロジェクトのさらなる推進について

山本まさの

埼玉版ウーマノミクスプロジェクトが3年目。女性の就業支援について中心的役割を果たしてきた「女性キャリアセンター」の成果は、そして今後の取り組みは？

上田知事

平成20年5月に女性キャリアセンターを開設し、女性のカウンセラーによる面談や職業紹介などの就業支援をしてきた。就業支援セミナーも年200回開催し、女性の視点に立ったきめ細かな支援をしている。

その結果、今年7月末までの利用者は累計45,000人、就職確認者は4,000人超となった。10月からは新たにハローワークの求人情報約15万件を活用することができ、より利用者の希望に沿った職業紹介が可能になった。

また、人材が不足している介護現場の職場体験や、子育てなどで外で働くことが難しい女性に、ウェブデザインなどの在宅就業への支援も拡大している。

今後も女性の様々なニーズに対応するため、きめ細かな支援をワンストップで提供していく。

山本まさの

企業において意欲ある女性を育てることが重要だが、中小企業には行政の支援も必要と考える。企業における女性活躍の推進について知事の所見は？

上田知事

女性の活躍を進めるには、企業において女性が就業継続できる「働きやすさ」と、女性が仕事にやりがいを感じる「働きがい」の2つが必要と考える。

「働きやすさ」については、仕事と家庭を両立できる職場づくりを進めること。短時間勤務制度など女性が多様な働き方を選べる企業＝「多様な働き方実践企業」をすでに1,139社認定し、その普及に努めている。

「働きがい」では、新たな分野での仕事や管理職への昇進など、活躍の場を広げることが必要だと考える。今年度はコンサルタントを新たに企業15社に派遣し、女性従業員による商品開発や営業力の向上、管理職の育成に取り組むモデル事例をつくり、県内企業に広めているところである。

埼玉県では、電車に広告のラッピングをするなど、埼玉版ウーマノミクスプロジェクトの周知のための取り組みも進めています。

医療に関する新たな

この件について私は4月から、要望書を

山本まさの

医療従事者の支援を行う中核的な拠点機関として「医療勤務環境改善支援センター」の設置が求められている。今の検討状況はどうなっているか。

保健医療部長

医療従事者の勤務環境の改善を図ることは本来、各医療機関の自主的な取り組みによるが、中小規模の医療機関などにおいては経営や人員面で大変厳しい勤務環境とならざるを得ない状況もあることから、医療機関の自主的な取り組みを促すため、柔軟な勤務形態の導入など労務管

危険ドラッグ条例制定に対する私の質問と知事の答弁が、9月27日付の各新聞各紙に取り上げられました。写真は記事の切り抜き。上から、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、埼玉新聞（2つの記事）、産経新聞。

危険ドラッグ対策について

山本まさの

埼玉県でも、危険ドラッグを規制する独自の条例を制定すべきと考えるが、知事の所見は？

上田知事

本県ではこれまでも危険ドラッグ販売店舗に対する立入検査を中心に、指導・取り締まりに力を入れてきた。基本的には法律で国内統一基準により規制するのが第一だと考え、国に対して緊急要望も実施している。

県独自の条例の制定については、まず県独自の指定薬物を指定することによって、法律よりは迅速にかつ多くの薬物を規制することが可能になる。

また、警察官による立入検査の権限を付与することにより、より効果的な指導・取り締まりの実施が見込める。

さらに、条例で県独自の刑罰規定を設けることは、条例のある都府県から本県に販売店舗が流れてくることに対する抑止力にもなる。

これらのことを総合的に考え、県議会の意見を踏まえながら県独自の条例制定を検討していきたいと考えている。

その他の質問　●医療に関する新たな支援（財政支援制度）について／●健康寿命を伸ばすための取り組みについて／●フードバンク活動の環境整備について／●地元問題について（県道平方東京線の拡幅整備について／新方川の整備について／大相模地区の浸水対策について）

山本まさの

埼玉県内唯一の薬物依存者回復支援施設である、NPO法人埼玉ダルク。最近は危険ドラッグに関するものも含め、相談件数も利用者も非常に増えている。

薬物依存から抜け出そうとする人をサポートするこの団体の活動は大変重要だと思うが、泊まりのケアにはスタッフがボランティアで対応している状態だとか。

この団体に対する県の支援についてどうお考えか。

保健医療部長

県では、県立精神医療センターや保健所といった公的機関以外の相談先として、依存症からの脱却や再発に関する相談事業を、埼玉ダルクに委託している。

また、専門相談員のマンパワー確保のための経費に対する補助も行い、その活動を支援しているほか、埼玉ダルクとは緊密に連携をとり、依存症者の社会復帰支援につなげている。

今後、ますます埼玉ダルクが果たす役割は重要になると承知しており、同団体に対しては、大変厳しい財政状況ではあるが、必要な支援が行えるよう、各事業について精査し検討していく。

支援について

提出するなどして取り組んできました。

理面での改善策をはじめ、医療クラークの導入や女性医師の支援策などの助言を行う総合的な窓口を設けることが重要である。

そのため現在、「医療勤務環境改善支援センター」の設置に向けて、県医師会、看護協会、社会保険労務士会など関係機関と協議を進めている。

公平な運営を確保するため、当面は県が主体となる方向で検討していく。

埼玉県は今後全国一のスピードで高齢化が進むことにより、医療ニーズの急増が見込まれる。医療従事者の確保・定着が一層進むよう、勤務環境改善に向けた取り組みをしっかり支援していく。

わたしの県政報告がユーチューブで見られます

これまで議会が終わるごとに会報の発行や「県政報告会」を行い、情報発信をしてきましたが、6月定例会からビデオでのご報告も始めています。

特定の時刻に特定の場所にお集まりいただく「報告会」では、参加できる方が限定されてしまいます。「県政をもっと身近に！」が私のモットーですから、できるだけ多くの方に、生の声で報告をお聞きいただきたいという気持ちでチャレンジしました。

初めてのビデオ撮影は、みなさんを目の前にしていない、カメラに向かっての報告ということで、とても難しかったですが、これからも続けていきますので、ぜひ一度ご覧ください。インターネットのユーチューブでご覧いただけます。

youtube.com/watch?v=LRXfh13dc78

【写真・上】ユーチューブの画像。このビデオの企画・制作をしていただいた（株）シードリーフ代表の五十嵐さん（左）に、司会もしていただきました。
【写真・下】撮影風景。越谷市瓦曽根に出来たばかりのスタジオで行いました。

競馬場を初体験

私は県議として、浦和競馬場を運営する「埼玉県浦和競馬組合」の議会議員になっています。そこで10月9日、他の担当議員の方々と視察に出向きました。

最初に驚いたのは、周りが普通の住宅街だということ。しかも近隣住民とよい関係が築かれているというのでまたビックリ。地域の夏祭りを場内の広場で行うなどの交流があることや、競馬場を警察OBが警備しているため地域全体の治安がよいということが理由のようです。

視察当日はイベントが開催されており、親子連れや若いカップルで賑わっていました。競馬場がこんなに身近なものだったことを知り、すっかりイメージが変わりました。

埼玉県浦和競馬組合は、埼玉県とさいたま市を構成団体とする一部事務組合で、地方公営競馬事業を実施しています。
【所在地】さいたま市南区大谷場1-8-42
【電話】048-881-1551
【交通】JR「浦和駅」東口より 徒歩15分、
「南浦和駅」東口より 徒歩20分
両駅よりバスもあります。

略歴

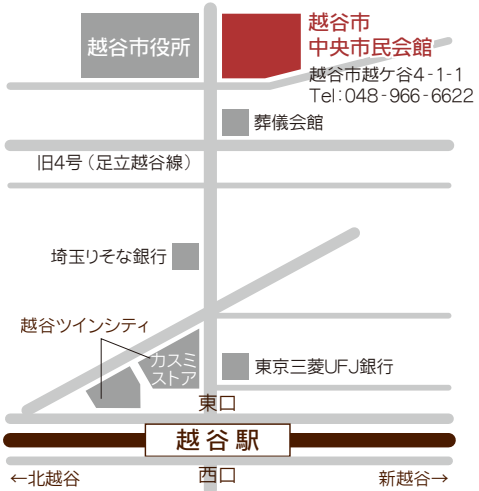
1959年　愛媛県南宇和郡生まれ
1982年　文教大学教育学部卒業
1982年　埼玉県立越ヶ谷高等学校勤務
（子育て・夫の両親の介護のため数年休職）
1995年　埼玉県立浦和東高等学校勤務
1999年　越谷市議会議員 初当選
越谷市議を3期務める
2011年　埼玉県議会議員 初当選

現在

- 福祉保健医療委員会委員
- 経済・雇用対策特別委員会委員
- 桜井スポーツ連盟会長
- 上間久里婦人防火クラブ員
- 地域医療を考える市民の会役員
- 学校給食と教育を考える親の会会員
- CAP東埼玉副代表
- 越谷市倫理法人会会員

県政報告会
2014年
12月6日（土）18:30～
越谷市中央市民会館 ⇨
参加希望の方は事前にご連絡ください。

東武スカイツリーライン「越谷駅」東口より 徒歩7分



参加のご連絡は、FAX:048-962-8121 または
Eメール:masano.yamamoto@sea.plala.or.jp まで